

患者家族支援情報提供部会（第2回：8月31日）における意見

- ・がん患者意識調査から、相談支援センターが知られていない状況。今後、更なる周知、繰り返しの普及啓発が必要。
- ・就労支援が重要。企業への周知や取り組みが必要。
- ・血液がんは多種多様。30代から40代の患者が増えている。病気のことや骨髄バンクのことを知ってもらいたい。
- ・がん患者意識調査から、患者さんに情報が伝わっていない。それについてメディアの力は大きいと考える。新聞は身近な存在で有効な手段。
- ・調査結果から、ピアサポートについて、患者さんは体験者を求めている。ピアの取り組みを進めていかないと。
- ・教育、子どもに対する啓発は重要。
- ・患者に情報が伝わっていないことについて、いろいろ取り組みがされているのにこの結果になるのは、何か、患者固有の心理があるのでは。
- ・在宅の方は多く、心のことや苦痛のことに力を入れていかないと。在宅について、スタッフが十分確保できないこと、末期の人をどうカバーするか、診療所との連携をどう図っていくかなどの課題がある。
- ・就労問題について、企業側に把握してもらう必要がある。患者を雇ったらお金を出すなどの企業への助成金制度はどうか。企業側もメリットがないと。
- ・就労問題に関する制度の周知が不十分なところがある。市報などの活用や広報はどうか。
- ・がん対策について、患者がメリットを実感できないと。
- ・相談について、患者さんの背中を押して相談員へつなぐ方法がないと。
- ・情報不足について、各拠点病院から発信しては。ネット情報だけでは、患者は情報にのみこまれ、迷うことになる。

- ・がんはこわいというイメージがあり、正しいことを伝えて変えていかないと。
- ・患者にとって何をしてほしいか、何を望むか、これを掘り下げていかないと。
- ・新聞紙面を使った PR は、先端医療などの希望があるものがよいのでは。先端医療について、知っている人は知っているが、知らない人は全く知らない。
- ・患者はいろいろ相談に行かれるが、相談しているそこが「相談支援センター」という理解がないのでは。
- ・相談支援センターで就労の相談は実際あるが、ハローワークにしかつなげられない。
- ・就労問題について、実態をひもとかないと。聞き取りなどをしてはどうか。
- ・がんになっても仕事が続けられるような方策か、切るのを防ぐ方策を。

追加意見（計画素案に対する意見）

- ・がんサロンとピアサポートとの役割の違いを区別、明示して整理すべき。ピアサポーターは、より患者に近いところで活動されるもの。ピアサポーターは傾聴に重きが置かれ、医療制度や、がんの経験・知識等を持つことが必要とされる。
- ・医療者サイドから相談支援センターを患者家族に伝えてほしい。医療者、病院からの後押しがいるのでは。
- ・就労問題について、県内事業者への協力依頼と指導等の検討をしては。
- ・就労問題についてもう少し具体的に書いては。助成事業体制にはどのようなものがあるか、制度や医療費について手引書のようなものがあるとよい。
- ・情報提供について、患者が治療に向かう時に、治療に係る痛みや不安についてと、社会支援についての資料を渡してほしい。